

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者/まんが/乱楽パズル
- 4・5面 PFAS急がれる実態調査/女性働く/ホットライン
- 6面 食事情/子育て相談/時事
- 7面 新婦人の活動/主張/母の歴史



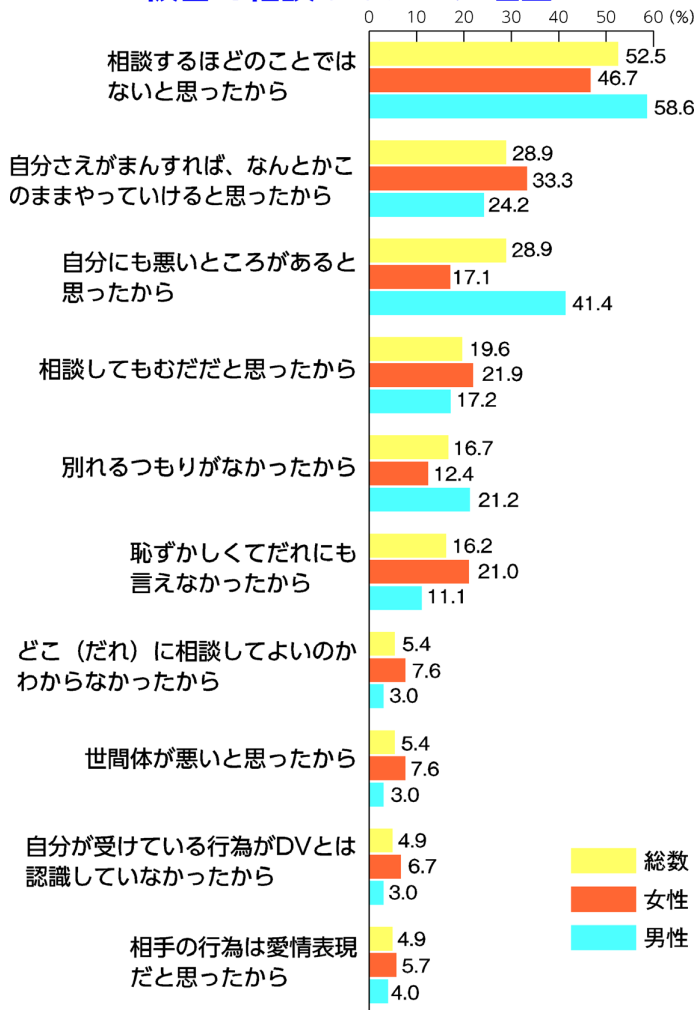
埼玉・ふじみ野市 東海林秀子 (75)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

見えづらく、より深刻化するDV

求められる被害者支援

被害を相談しなかった理由



男女共同参画局 2023年度 「男女間における暴力に関する調査」より作成

殴ったり蹴ったりはしないけれど、言葉や態度で追いつめるDVの被害がふえています。国も法律を改正しましたが、その実態から求められる支援のあり方について、DV被害に悩む女性をサポートしている「エープラス」代表の吉祥真佐緒さんに聞きました。



よしざきまさお DVのない社会をめざし「エープラス」を2006年に設立。被害女性の支援活動を中心に、子どもたちへのDV防止教育にも尽力している。

DV被害者支援 一般社団法人「エープラス」代表理事 吉祥真佐緒さん

関係性に上下や優劣がある

「DV(ドメスティックバイオレンス)：家庭内や恋人など親密な関係の中で発生する暴力」が社会的に認知されるようになりまし。DV防止法(※1)が一部改正され、今年4月から身体的

暴力だけでなく精神的暴力にも適用されています。しかし、日本の法律では配偶者間(元配偶者、事実婚を含む)に限定されていることはあまり知られていません。DVを受けた場合、日本では基本的に逃げるしかなく、被害者支援が体系化されていないのが現状です。DVの種類は大きく分けて「身体的暴力」「精神的暴力」「経済的暴力」「性的暴力」があります。これは行為の形態ではなく、夫婦の関係性に上下や優劣があることをさし返ります。そう定義して振り返ると、実際にはもっと多くの人がDVの関係にあると思いがちです。

ふえている殴らないDV

「殴るとDV」と認識されるようになり、保護命令(被害者の申し立てにより裁判所が加害者に発する命令。接近禁止命令など)の発令率は圧倒的に減りました。しかし実態は「殴らないDV」がふえ、もっと深刻に分かちにくく、かえって陰湿なものになったといえます。被害の因果関係を被害者自身が立証しなければならぬなど、認定のハードルが上がったのです。

「妻は自分の所有物」という価値観はかなり根深いものです。ある程度上の世代は「お嫁さんは旦那さんの求めを絶対拒んではダメよ」と言われてきた。そのような意識が夫婦間の性的暴力につながっています。 ※1 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律



いま加害者は、殴らないが、たとえば怒鳴る。一晩中説教して寝かさな

いとか、毎日反省文を書かせるとか。経済的に追い詰めるDVも多いです。夫にそれなりの収入があり高層マンションに暮らし、子どもは私立の小学校に通う。はたから見るといい暮らしをしているように見える人が、生活費を夫から管理され、毎月3万円しか受け取っていないこともあり

8月17日号は休刊です

2面へ

